

入賞作品介绍

⑨・完

小学生の部親子賞 入選

読む 知る 学ぶ

E! 新聞

ぼくと新聞

須賀川市 薄井 嶺さん
須賀川市 四年

ぼくは新聞が好きです。毎日新しいニュースがでてくるからです。ぼくが新聞を読み始めたきっかけは、学校で配られた小学生新聞でした。それから新聞にきょうみを持ち始めました。それで、お母さんに相談して申しこんでもらい、一週間無料で新聞を読みました。その期間が終わると、新聞が読めなくな

ってしまふのがざんねんで、お母さんに「これから毎日読むし、とちゅうであきたりしない」とやぐそくして、申しこんでもらいました。ぼくはあきつぽいところがあつたので、説得が大変でした。それから今まで毎日新聞を読んできました。

ぼくは、朝起きたらすぐに新聞を読みますが、時間が無い時は、帰って来たらすぐに読みます。とにかく毎日どくことを楽しみにしています。ぼくが毎日新聞を読んできて一番印象にのこつたニュースは、二〇二〇年の東京オリンピックにかつようとしてお金がかつたかかつたことです。すぐくびくくりしました。

ぼくは前まで調べものはネットできがしていましたが、新聞を読み始めてからは、調べものは新聞できがすようになりました。ネットにはのつていないようなことがたくさん書いてあるからです。

新聞は、子育て中の狭い世界にいた私に現在を教えてくれました。結婚して出産。すぐに子育て中心の生活となりました。テレビで見るのは子ども番組、ニュースの時間もご飯の用意やお風呂、片付けと、世間の話や動きなどがすっかり入つてこなくなりまし

テレビより新聞

母 薄井 久美さん

よく言われますが、子育て中は社会とは断絶された世界になってしまいがちです。それでも子どもを成長させるために、子どもが幼稚園に通い始め、短時間の仕事を始めた時に違和感を感じました。職

場の話題をほとんど知らなかつたのです。いつも「テレビを見る時間がなくて」と言い訳をしていました。この頃、結婚後絶え間なく契約していた新聞に無駄を感じていました。実家にいる頃は、夕方には家族によって太らされていた新聞を目にして

たのに、我が家では薄いまま片付けていました。ある時ふと、もつたいなと思つて目を通すと、職場の話の続き、心の痛み事件、子育てアドバイザーや地域イベント、一気に視野が広がりました。テレビを見ないから知らなかつたのではなく、決

まった時間に一方的に流される情報を受け取れる環境ではなかつたのです。新聞は、手すきの時に、自己中心で情報を得ることができ、短時間で効率よく社会の動きを感じられ、私の日常に欠かせないツールとなりました。

今年の春から、次男が「こども新聞」を読み始めました。起きてすぐ開き、読み足りない時は下校後にまた開き、片付けの頃にはももこになつていきます。たくさんの話題と出会い、進む将来の資産になってくれると思